

育ちのめやす

年齢ごとに、お子さんたちの「育ちのめやす」をまとめました。

同年齢の健聴児集団と関わっていく上では、言語の発達だけではなく、人とのかかわり方（社会性）、運動発達（粗大運動・微細運動）の発達など、さまざまな側面を見ていく必要があります。

0 歳 児

特定の大人との愛情深いかかわりの中で、心身の機能が著しく発育・発達する時期。

○保護者・療育者などに甘えながら、個々のリズムで安心・安定して、心地よく過ごす。

- ・安全で快適な中で個々の生活リズムにそってゆったりと過ごす。
- ・保護者や療育者との愛着・信頼関係・情緒が豊かに育つ。
- ・五感の刺激を受けながら感覚器官が育つ。
- ・さまざまな食品に触れ、少しずつ慣れながら、食べることを喜ぶ。
- ・見る・聞く・触れるなどの経験を通して、好奇心の目を育てる



1 歳 児

歩き始める、言葉を話すなど精神面・運動面の機能に著しい発育・発達が見られ、自我が芽生える時期。

○保護者・療育者との安心・安定したかかわりの中で、一人でじっくり遊ぶことを十分に楽しみながら、自我が芽生える。

- ・食事・排泄・着脱など日常の生活動作を自分でやろうとする気持ちが芽生える。
- ・保護者・療育者と安心・安定した関係の中で十分に探索遊びを楽しむ。
- ・生活動作・遊びを通して体を十分動かすことを楽しむ。
- ・身のまわりのさまざまなものに触れて遊ぶことを通して好奇心や関心を持つ。
- ・生活や遊びの中で、保護者や療育者に言葉をかけてもらうことを通して、聴こえと言葉に楽しく触れる。

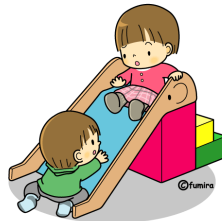


2 歳 児

好奇心旺盛で、盛んに探索行動・活動を行う時期。
さらに、自己主張しながら自立心が芽生えてくる時期。

○保護者や療育者の支えを受けながら自己主張をしたり、喜怒哀楽の感情を十分に表現する。

○盛んな探索行動・活動の中で得た経験や発見を保護者や療育者、身近な友だちに自分から喜んで伝えようとする。



- 簡単な身のまわりの活動をできる部分を自分で行う中で、基本的な生活習慣が身に付く。
- 保護者・療育者や他の子どもとかかわる中で、気持ちや言葉のやり取りを楽しみ、コミュニケーションへの興味関心が広がる。
- 手や指先を使った遊びや身体を使った運動遊びを十分に楽しむ。
- 生活や遊びの中で経験したこと興味関心があるものをまねたり、再現したりして遊ぶようになる。
- 戸外遊びを十分に楽しむ。

3 歳 児 （年少）

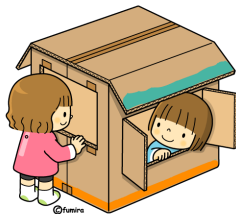
運動機能、聴こえと言葉の基礎が育つ時期。

また、食事や排せつなどの身辺自立がかなり自立してくる時期。

さらに、保護者や療育者が中心だった関係が友だちとの関係が中心になってくる時期。

○身のまわりのことがかなり自分でできるようになり、自分のやりたいことに向かって自分から行動するようになる。

○ぶつかり合いながらも子ども同士で、大人の仲立ちや橋渡しを受けて楽しく遊ぶことができるようになる。



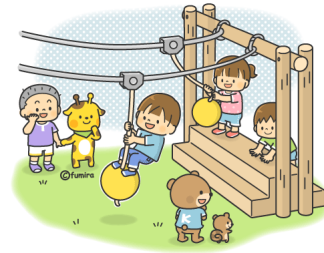
- 基本的な生活習慣や生活動作が身に付き、自分から生活をするようになる。
- 友だちとのやり取りを受けながら友だちと遊ぶ中で、集団行動や活動を楽しめるようになる。
- 自分の思ったことや感じたことを言葉で表すようになる。
- 大人や友だちとの言葉のやり取りを通して、人の話を聞く力が育つ。
- 戸外遊びを十分に楽しみ、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- 思ったことや感じたこと、経験したことを描いたり話したりすることによって表現することを楽しむ。
- 年上の子どもの活動に興味を持ち、あこがれるようになり、まねて遊ぶようになる。

4 歳 児 （年中）

全身運動のバランス能力が発達し、体の動きが巧みになる時期。
また、自意識が芽生え、試行錯誤や葛藤など様々な体験をする時期。

○強く自己主張しながらも、相手の気持ちに気づいたり、理解することもでき、少しずつ自分の気持ちを抑えて表現したり、行動したりできるようになる。

○仲間意識が芽生え、数人の友人とイメージを共有して遊ぶことができる。



- ・生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、自分でできる範囲を広げる。
- ・友だちの関係を広げて集団で活動することを楽しむことを通して、周りの人への親しみや愛情を深める。
- ・運動機能をさらに高め、より意欲につなげるようになる。
- ・季節や身近な環境、社会のニュースなどに関心を持ち、それらを感性豊かに取り入れ、遊びを広げようになる。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや考えていることなどを表現したりすることを通して、言葉で伝えあう楽しさを味わう。

5 歳 児 （年長）

日常生活における基本的な生活習慣がほとんど自立する時期。

また、自分なりに考えて物事の善悪の判断ができるようになり、仲間の一人としての自覚と自信をもって行動できるようになる時期。

○自分なりの考え方をもち、集団のルールや決まりも理解しながら流れや見通しを持って生活したり、行動したりできるようになる。

○友だちと目標や目的を共有して、個々の役割を分担して、それを果たしながら最後まであきらめないでやり遂げることができるようになる。

○友だちや周囲の人をいたわったり、個性や持ち味を認め合ったりしながら、問題や困難が生じて自分たちで相談し、解決しようとするようになる。

- ・人とかかわりの中で社会生活における必要な動作や態度を身につけ、自分から率先して行動するようになり、その時の達成感や満足感を味わう。
- ・異年齢の友だちに関心を持ち、かかわりを深めていく中で周りの人を思いやる気持ちや行動する力を育てる。
- ・運動機能の向上を自覚し、複雑な運動や集団的な遊びをさらに楽しむようになる。
- ・身近な環境や事物に自分からかかわり、見たり、触れたり、考えたりする中で物の性質や数量、形、位置などへの関心を深める。
- ・自分の経験したこと、考え、想像したことなどを適した言葉で表現したり、相手と伝えあったりする楽しさを知る。



【就学前】

- ・自分の立場を主張したり、相手の意見を聞き入れたりしながら、互いに大切に尊重する中で友だちと協力してやり遂げる気持ちを育てる。
- ・自分たちでルールを作り、それを守って遊んだり、改善したりして生活する楽しさを知る。